

# 21 世紀環境立国戦略意見交換会報告

講座名等	21 世紀環境立国戦略意見交換会		
日時	平成19年9月22日（土） 13:00～16:00		
場所	山口県セミナーパーク 研修室 220	参加者数	20人
共催者	環境省中国環境パートナーシップオフィス 山口県地球温暖化防止活動推進センター		

## 1 スケジュール

- 13:00 開会
- 13:10 21 世紀環境立国戦略について
- 14:00 意見交換会  
～8つの戦略から参加者の要望により選定～
- 15:40 環境政策提言について
- 16:00 閉会

## 2 意見交換会の内容

### 【戦略1（気候変動問題の克服に向けた国際的リーダーシップ）】

- 国民運動1人1日1kg とあるが、どのような展開をしているのか。家庭1戸1戸に行き渡るようにしないと意味がない。  
→ チームマイナス6%の国民運動を展開しており、各企業、著名人の協賛のもと、マスコミ等を通じて、運動の周知を図っている。  
1人1日1kg をチームマイナス6%ホームページ上で、宣言してもらおう。現在、104の企業の協賛があり、宣言文をプリントアウトすると、割引等の特典が得られる。  
(例) 日本マクドナルドでは、「私のチャレンジ宣言カード」を提示すると、「ビッグマック」を特別価格150円（税込）で提供。
- 国際的なリーダーシップから言うと、途上国、中国やインドにいかにか約束をまもらせるかで、2050年のシナリオが達成できるかにかかっていると思うが、どのように考えているのか。  
→ 義務を負わない国にどのようにして義務を負わせるかが課題である。各国とも地球温暖化対策の必要性は十分認識しており、これからの問題であり、これが第1歩である。
- 国民運動、チームマイナス6%と言いながら、何をすればどの程度のCO2削減になるか等の情報提供不足である。どのようにして伝えるのか。

→ まず、運動の周知にはマスコミの協力は不可欠である。また、地域の温暖化防止活動推進センターが十分動けるようにする必要がある。場合によっては、地球温暖化対策推進法の改正も必要と思っている。

● EU、特にドイツのCO<sub>2</sub>削減の取組は成功しているように思うが、実態はどうか。電力供給システムや経済システムを基に教えて欲しい。

→ CO<sub>2</sub>削減で言えば、ドイツ、イギリスは成功した国である。ドイツの削減は、旧東ドイツの非効率的な生産工程の改善で効果を上げている。また、イギリスは天然ガス化により削減効果を上げている。これは、日本の実情とは異なる。(日本は1980年代にエネルギー効率を上げた生産をしており、基準年の1990年は既に相当な効果を上げていた。この1990年を基準としたことが、削減効果が上がらない要因の一つである。)

ドイツの電力供給システムでは、自然再生可能エネルギーの利用を十二分に発揮できる仕組みとなっている。電力会社は風力、太陽光等で発電した電力を買い取るが、日本のように、設置者は掛かった費用の一部しか回収できないシステムではなく、掛けた経費は電力会社が支払うシステムとなっており、設置者の負担はない。このシステムは見習うことが必要である。

● 「原子力発電の平和的利用の促進」について、説明が無かったが、原子力の話は避けて通れないと思うがどうか。

→ フランスは電力の8割を原子力に頼っている。原子力については、様々な意見があるが、CO<sub>2</sub>削減には大きな効果がることは、今年の柏崎原発の事例でもわかる。平和利用・安全確保に問題がなければ、長期戦略として原子力は有効なエネルギーである。

その他、自然再生可能エネルギーについては、国により考え方が異なる。イギリスでは風力発電は進んでいない(田園風景の景観保持のため)。日本でも風力発電に野鳥が衝突するとのことで、反対意見もある。また、風力発電設置場所の候補地は、国立公園内であり、今後検討が必要。

● 温暖化によるシミュレーションでは、海面上昇があげられているが、対策はとっているのか。

→ 温暖化と社会資本整備については、国際的にも議論を呼んでいるが、未だ、着手されていない。(IPCC第4次報告では、CO<sub>2</sub>を全世界で半減できても、2°C、最大6.4°Cの上昇を予測している。)

海面上昇は、温度上昇による水の膨張及び氷河・南極大陸の氷が溶けることが原因で起こる。

#### 【戦略2 (生物多様性の保全による自然の恵みの享受と継承)】

● 「新たな共同管理のしくみ」とはどのようなことを考えているのか。都市住民

や企業などの参画は実際に行うのは難しい。

→ 事業があって、記載したものではなく、理念先行である。里山保全は高齢化により今行き詰まっている。都市の人手を考えたものである。

● この戦略のもとに、生物多様性を保全するために必要な法改正を行うのか。

→ 法改正スケジュールとは全く別である。

### 【戦略3（3Rを通じた持続可能な資源循環）】

● 3Rの本質は、リユースそしてリサイクルだと思う。循環型社会では、リデュースについては、消費者は余り関心が無く、リサイクルのみに関心が集まっている。しかし、リサイクルについては、エネルギーコストがかかりすぎ、効率的ではない。リユースに力を入れるべきである。

→ 現在の社会はリサイクル速度が速すぎて、リユースの効果が現れてこない。リユースが必要だと思う。

### 【戦略7（環境を感じ、考え、行動する人づくり）】

● 子供たちに環境学習を行うためには、環境省と文部科学省が連携する必要がある。団体が学校に環境学習を働きかけても、相手にされない。なかなかつながりをもてない状況にある。

→ 学校での教育は必要なことなので、環境省も一層連携を図る。「21世紀環境教育プラン～いつでも、どこでも、だれでも環境教育AAAプランから」は文部科学省が作成。連携の必要性は十分知っている。



(感想)

熱心に環境問題に取り組んでいる方々が参加しておられ、日頃感じていることを環境省担当者に伝え、活発な意見交換ができ、参加者には有意義だったと思います。